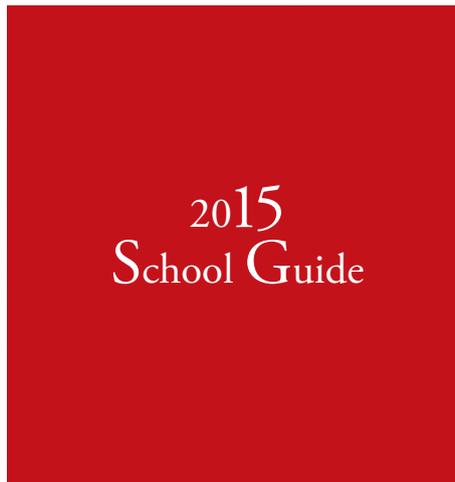


情報学群 知識情報・図書館学類



*College of Knowledge and Library Sciences
School of Informatics*

筑波大学全景



知識共有をたすける 「知識人」

現代社会に生きるわれわれは、膨大かつさまざまな情報に取り囲まれ、めまぐるしい日々を過ごしています。大昔からこれまで、人類は必要な知識をいろいろな方法で後世に伝えてきました。図書館は一例ですが、現代ではネットワークやデジタル情報など、多様なものがあります。

ちまたの情報から有用な知識を引き出し、それを有効に活用することがますます重要になっています。そのため、高度な技術力はもちろんのこと、真偽を判断する能力をもち、著作権などの社会制度にも詳しい幅広い知識をもった人材が求められています。

知識情報・図書館学類では、知識共有のスペシャリストの養成をめざしています。社会における知識共有を支える人、知識共有のために新しい技術を開発する人、先端的図書館をリードする人、知識を扱うための知識を普及させる人など、多様な人材を育てようとしています。

私たちが足がかりに、国際的に活躍する知識のスペシャリストとして未来を担ってみませんか。

知識情報・図書館学類長

長谷川秀彦

春日エリアの施設



学ぶ

■ 知識情報・図書館学類とは？

みなさんは何かについて知りたいと思ったとき、どうしていますか？まわりにある情報の多さに困惑していませんか？知識情報・図書館学類では、情報化社会に生きる私たちが知識や情報を有効に活用するためのさまざまな仕組みを扱います。そこには、社会に息づく図書館もあれば、広大なインターネットの世界、膨大な情報やデータの利用と分析、未来への知識や情報の伝達などが含まれています。

知識や情報を有効に活用するためには、その性質を的確にとらえ、それらを扱うシステムを設計・構築する必要があります。システムを創るためには、制度や文化、運営について考えなければなりません。知識情報・図書館学類では、これらの課題について「知識科学」、「知識情報システム」、「情報経営・図書館」の三つの主専攻が協力して、知識や情報と社会をつなぐ人材を育成します。

■ カリキュラム

知識情報・図書館学類のカリキュラムは図1のようになっています。1年次には、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、情報システム、情報社会と法制度などについての概論や、プログラミング演習、統計などの専門基礎科目を通して、基礎的知識や技術を学びます。2年次には、1年次に得た知識や技術

をさらに深めていくため、主要なテーマごとに設定された講義と、技術を修得する知識情報演習などからなる専門基礎科目を履修します。3年次になると三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。4年次には、研究室に所属して卒業研究を行い、卒業論文を執筆します。卒業時には学士（図書館情報学）があたえられます。資格取得をめざす人のために、司書教諭、司書の科目も開講しています。

学修の達成度はGPA（Grade Point Average）によって容易に把握できるようになっています。GPAとは、成績を点数化したもので、修学指導や大学院への推薦などに使われています。

■ 専門教育

知識情報・図書館学類の専門教育の内容は、三つの主専攻に集約されています。各主専攻の特徴は、表1のようになっています。知識科学主専攻は「人間」、知識情報システム主専攻は「情報技術」、情報経営・図書館主専攻は「社会」をキーワードに、幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開しています。

図1 知識情報・図書館学類のカリキュラム体系

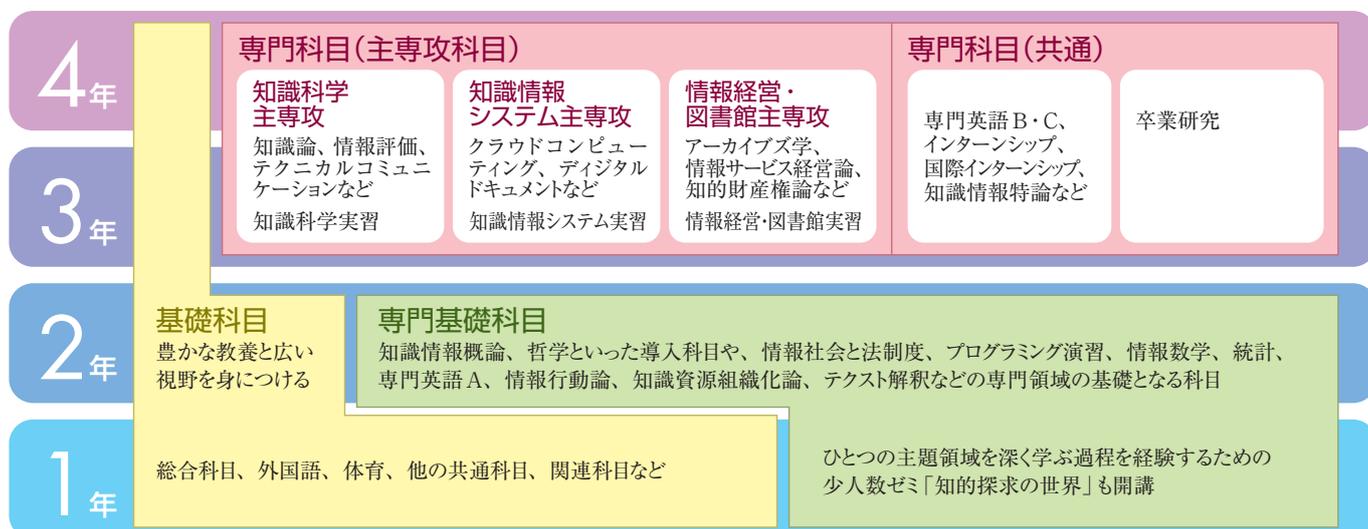


表1 各主専攻の特徴

| | 知識科学主専攻 | 知識情報システム主専攻 | 情報経営・図書館主専攻 |
|--------|--|--|--|
| ポイントは? | 人間 | 情報技術 | 社会 |
| 何を学ぶか? | 知識の本質、知識と情報行動、知識獲得のあり方と方法、知識の抽出・表現・探索、思考法に関する理論と応用 | ネットワークにおける知識と情報の共有、データベース、情報検索、デジタルライブラリなどの知識情報技術に関する理論と応用 | 知識共有に関する社会制度、メディアと図書館の文化、知識情報資源の構築とサービスのマネージメントに関する理論と応用 |

図2 知識情報・図書館学類の科目一覧

| 学群共通科目 | | 専門科目 | | ☆主専攻実習 | ☆卒業研究 |
|---|---|-------------|--|--------|-------|
| 情報社会と法制度 知的財産概論 | | 知識科学主専攻 | [専門情報] 特許情報論, 医療情報論, テクニカルコミュニケーションサイエンスコミュニケーション [知識共有] 知識論, 知識コミュニケーション, レファレンスサイエンス, メディア社会文化論 [知識行動] 学術メディア論, コミュニティ情報論, 図書館建築論 [知識発見] 知識構造化法, 情報評価, 生命情報学, ソフトコンピューティング, データマイニング | | |
| ☆は必修科目 | | 知識情報システム主専攻 | [知識情報システムの実際] デジタルライブラリ, デジタルドキュメント, 情報サービスシステム [知識情報システムの実装] マルチメディアシステム, 情報検索システム, Webプログラミング [知識情報システムの設計] データベース技術, データ表現と処理, 情報デザインとインタフェース, ヒューマンインタフェース [知識情報の組織化] 知識資源の記述, 知識資源の分析, 知識資源の用語管理 [知識情報システムの原理] データ構造とアルゴリズム, テキスト処理, マークアップ言語, クラウドコンピューティング, ソフトウェア工学 | | |
| 基礎科目 | 専門基礎科目 | 情報経営・図書館主専攻 | [知識情報環境の構築] 図書館論, 学術情報基盤論, 経営情報システム論 [知識情報サービスの経営] 情報経済論, 情報サービス経営論, パブリックガバナンス論 [知識情報サービスの構成] 情報サービス構成論, コレクションとアクセス, Comparative Study on Library and Information Services [知識情報の社会化] 教育文化政策, 学校図書館論, メディア教育の実践と評価 [知識情報の規範] 情報法, 知的財産権論(著作権法), 知的財産権論(特許法), 図書館情報法制度論 [図書館と書物の文化] 図書館文化史論, 中国図書館学, 日本図書館学, アーカイブズ学 | ☆主専攻実習 | ☆卒業研究 |
| ☆第1外国語 ☆総合科目I (フレッシュマン・セミナー, 情報リテラシ実習) ☆総合科目II ☆体育 ☆第2外国語 | [知識情報演習] ☆知識情報演習I, II, III [統計とその応用] 量的調査法 多変量解析 [語学] ☆専門英語A [知識と人間] 情報探索論 質的調査法 情報行動論 知識発見基礎論 [知識とシステム] 知識資源組織化論 データベース概説 コンピュータシステムとネットワーク 自然言語解析基礎 [知識と社会] メディア社会学 生涯学習と図書館 公共経済学 経営・組織論 [メディアの理解] テキスト解釈 [知的探求の世界] 知的探求の世界I, II (少人数セミナー) | 学類共通 | [知識情報特論] 知識情報特論I, II, III, IV [司書教諭科目] 学校図書館メディアの構成, 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性, 情報メディアの活用 [インターンシップ] インターンシップ, 国際インターンシップ | | |
| 専門基礎科目 | | | | | |
| [知識情報学への導入] ☆知識情報概論 ☆哲学 情報システム概説 図書館概論 [情報リテラシ] ☆情報基礎 ☆情報基礎実習 [プログラミング基礎] ☆プログラミング演習I, II [数学] ☆情報数学 基礎数学A, B [統計とその応用] ☆統計 | | | | | |

■ 特色ある科目

1年次には、大学生活への適応を支援する「フレッシュマン・セミナー」に引き続き、文章を読む、まとめる、議論する、発表するなどの基礎能力を養う「情報リテラシ実習」を必修科目として開講しています。また、文理融合型のカリキュラムによって総合的な能力を育てるとともに、2年次と3年次には必修の演習（「知識情報演習」、「知識科学実習」、「知識情報システム実習」、「情報経営・図書館実習」）を開講し、知識と技術の確実な定着をめざします。さらに、4年間を通して英語力を維持向上させるために英語による授業（専門科目）を開講したり、実社会での専門的な職業体験ができるよう、図書館や企業における「インターンシップ」を開講しています。



■ 国際インターンシップと海外研修助成

筑波大学は国際的な知識情報学の研究拠点であり、世界的な研究交流が行われています。その関係を活かして、平成21年度より国際交流基金トロント日本文化センター、ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）、ハワイ大学、ミシガン大学（アメリカ）、上海図書館（中国）、釜山大学（韓国）等と連携した「国際インターンシップ」を開講しています。海外に10日間程度派遣し、相手国の図書館や情報センターの業務を学ばせることで、国際感覚やコミュニケーション能力を高め、国際的な視野をもった人材の育成をめざします。またハワイ大学や釜山大学の学生を受け入れ、海外の学生が日本の図書館について学ぶ機会も提供しています。

さらに、同窓会である茗溪会支部 図書館情報学橋会の支援を受け、知識情報学に関する国際的な知見を深めるための短期海外研修事業として「図書館情報学海外研修助成」を実施しています。この事業では、自分が作成した海外での研修プランに対して、渡航費や滞在費などが助成されます。毎年、学類生と大学院生の数名が助成を受けています。

■ 早期卒業

知識情報・図書館学類では、成績優秀な学生は、卒業に必要な単位（卒業研究を含む）を取得すれば、本人の希望により3年次末で卒業できます。

表2 国際インターンシップ受講者数

| | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|---|--------|--------|--------|--------|--------|
| カナダ（ブリティッシュ・コロンビア大学アジア図書館、トロント日本文化センター） | — | 2 | 1 | 2 | 1 |
| アメリカ（ハワイ大学、ミシガン大学） | 3 | 2 | 1 | — | 2 |
| 中国（上海図書館） | 3 | — | — | 5 | — |
| 韓国（釜山大学） | — | — | 3 | 6 | 1 |

表3 図書館情報学海外研修助成を受けたテーマの例

| |
|---|
| 公共図書館における資料選択のアウトソーシング（アメリカ、ハワイ州） |
| 地域の特徴を活かした公共図書館のプログラム（ニュージーランド） |
| 小規模図書館の活動と地域コミュニティとの関わり（アメリカ、ミシガン州） |
| 日本のNGOによる開発途上国の図書館への支援（ラオス） |
| 20世紀初頭のアメリカ公共図書館における日系人問題（アメリカ、カリフォルニア州） |
| 欧州諸国と日本の図書館の比較（イギリス、フランス、オランダ、ベルギー、デンマーク） |

■春日ラーニングコモンズ (KLC)

ラーニングコモンズとは、大学図書館内に形成された「学習するための共有スペース」です。KLC (Kasuga Learning Commons) は図書館情報学図書館のなかであり、だれでも利用できます。

KLCはICT環境が整っています。また、カラープリンタ、プラズマディスプレイ、ホワイトボード、ミーティングテーブルなども設置されています。KLCには上級生チューターが質問を受け付ける専用カウンターがあり、平日の15:00～19:00には基本的に1名以上のチューターがいて、講義や履修に関する質問を受け付けています。

1年のときにラーニングコモンズで上級生からレポートの書き方や、パソコンをネットワークに接続する方法を教わった学生が、今度はチューターとしてみなさんの入学を心待ちにしています。



上級生チューターが質問を受け付けるカウンター



KLC

撮影 池田光雪 (知識情報・図書館学類卒)

■司書資格と司書教諭資格

知識情報・図書館学類では、司書と司書教諭の資格が取得できます。司書や司書教諭は他の大学でも取得できますし、場合によっては通信教育や司書講習でも取得できます。しかし、同じ資格でも、知識情報・図書館学類は以下の点が異なります。

- (1) 資格のための科目ではなく、知識情報学の専門科目として自然に位置づけられています。
- (2) 現在の図書館は情報センターとしても機能しています。司書資格の多くは文系学科で取得しますが、本学類では理工系、たとえば情報システムにも明るい学生を育てています。
- (3) 図書館での現場実習が「インターンシップ」「国際インターンシップ」として組み込まれています。

単なる資格として取得するか、実力の伴った資格にするか、それはみなさん次第です。

■テクニカルコミュニケーター専門課程

テクニカルコミュニケーターとは、仕事としてテクニカルコミュニケーション（機器や各種サービスに関して、利用者が求める情報を、正確かつわかりやすく表現するとともに、効果的に提供すること）に携わる人々のことをいいます。テクニカルコミュニケーターには、単なる情報処理能力のみではなく、ライティングや検索、企画力、法的知識など、幅広い能力が求められます。

2012年度より、一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 (JTCA: テクニカルコミュニケーションの専門家団体) が、テクニカルコミュニケーター専門課程の認定を開始しました。これは、JTCAが定めた専門分野に関する科目を開講する大学学部を認定するもので、知識情報・図書館学類はこの認定を取得しました。知識情報・図書館学類の定められた科目を履習し、JTCAに申請することにより、テクニカルコミュニケーター専門課程の修了認定が受けられます。

■卒業研究はどんなことをやるの？

4年次の卒業研究では、知識や情報に関する専門性に加えて、社会に出て役立つ基礎的なスキルを修得します。はじめに関心のある研究テーマを見つけ、その研究テーマに関する文献を読み、新しいシステムをつくったり、調査を行ったりすることを通して、さまざまな発見をします。その成果を、卒業研究論文としてまとめます。このような過程や研究成果をまとめるなかで、知識や情報に関する専門性が深められます。

卒業研究の枠組、経過、最終的な成果などを報告する発表会は3回あり（着手発表会、中間発表会、最終

発表会）、限られた時間のなかで効果的なプレゼンテーションを工夫し、質疑応答も経験します。このような発表会を通して、社会で役立つプレゼンテーション能力、論理的思考力、文章力などが鍛えられます。卒業論文執筆の過程では、論理的に説明する力や文章力が培われます。

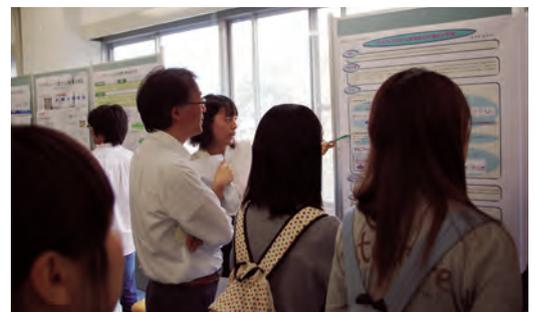
これまでの卒業研究のタイトルと抄録は学類ウェブページから見られます。卒業研究論文はpdfファイルで保存され、図書館情報学図書館で全文が閲覧できます。

表4 卒業研究題目の例（平成22～25年度）

| |
|--|
| 知識科学主専攻 |
| 科学博物館によるサイエンスコミュニケーション活動についての研究 —参加型イベントを対象として— |
| 学習スタイルによる最適な外国語e-Learning教材の選定に関する検討 |
| 利用者が図書館に抱くイメージの形成過程 |
| アイスプレイカーの類型化と対人関係における効果 |
| VOCALOID人気楽曲におけるメロディーの特徴 |
| 科学コミュニケーション活動の参加者の意識 |
| 知識情報システム主専攻 |
| XPath式に対するK最適修正候補発見アルゴリズム |
| 子どもの質問に着目したソーシャル絵本推薦システム |
| ソーシャル付箋の提案 —感性を用いた読者間コミュニケーション支援システムの開発— |
| フォロー別フィルタによるツイートフィルタリングに関する研究 |
| 画像処理を用いた視覚環境の拡張 |
| 絵画展示におけるAR技術を用いた解説システム |
| 情報経営・図書館主専攻 |
| 日本の公共図書館における携帯サイトを用いた情報発信 |
| 家庭環境が幼児の読書能力に及ぼす影響 |
| 明治期における図書館と博物館の組織的な併合と分離 |
| クラウドコンピューティングと著作権法上の課題 —著作物の利用主体性を中心に— |
| 津軽の俳諧研究 —芭蕉二百回忌を中心に— |
| 高齢者によるまちづくり活動と公共図書館の関わり —鹿児島県鹿屋市柳谷集落を中心に— |



ゼミの風景



知識科学主専攻の中間発表会



知識情報システム主専攻の最終発表会



情報経営・図書館主専攻の最終発表会

研究室訪問



横山 幹子 講師 (知識科学主専攻)

私たちはさまざまな知識を共有しながら、日々の生活を営んでいます。たとえば、「学校の裏のアイスクリーム屋のアイスクリームがおいしいこと」、「隣の家の猫が三毛猫であること」、「雪道が滑るということ」…。そしてそのような知識を共有することで、さまざまな行動を起こしたりします。たとえば、「学校の裏のアイスクリーム屋のアイスクリームがおいしい」という知識を共有する友人同士が、その店にアイスクリームを食べに行ったりします。「雪道が滑る」という知識を共有しているために、注意深く歩いたりします。その意味では、知識を共有することは、人間が社会の中でよりよく生活していくためには、不可欠なことだと考えられます。

では、共有されると言われる「知識」とはどのようなものなのでしょうか。そして、知識をどのようなものと考えたら、知識を共有することができるのでしょうか。知識を巡るそのような問題を解決しようとしてきた学問のひとつが、哲学であり、特に哲学の中でも、認識論(知識論)と呼ばれる分野です。

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を考えることをめざしています。学生は、「知っているとはどういうことか」から始まり、知識の本質、知識の限界、知識の確実性、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。これまでの卒業研究には、知識は個人の心のなかにあるのか、それとも社会の中にあるのかについて考察したもの、言語という記号で表現されるものと絵画という記号で表現されるものの違いについて考察したもの、コンピュータの理解と人間の理解の違いについて考察したもの等、さまざまなものがあります。

文献研究が中心になりますが、ゼミでの発表や討論を通じて、論理的思考力、発想力、コミュニケーション力を鍛え、批判的に考えることのできる人になってもらえたら嬉しいと思っています。



手塚 太郎 准教授 (知識情報システム主専攻)

人類が現在のような繁栄を手に入れることができたのは、経験のなかから知識を獲得し、体系化する能力によってではないでしょうか。この能力の本質を明らかにすることで、コンピュータにも人間と同じようにデータから知識を獲得する力を与え、さらなる進歩を実現しようとする研究が活発に行われています。手塚研究室では確率論や統計学に基づきデータから有益なパターンを発見し、構造化された知識を得ていくプログラムの開発を行っています。

インターネットやセンサーネットワークをはじめとして、膨大な量の電子的なデータが蓄積されている現在、これらの手法には幅広い応用があります。文書や画像、時系列データなどに対し、グラフィカルモデルやニューラルネットワークなど、データの特性にあわせたモデルを構築し、学習手法の実現に取り組んでいます。

研究室では毎週、輪講やゼミを行っています。輪講では基礎的な技術に関するテキストを用いて学生が順に発表し、理解を深めています。ゼミでは各自の研究に関してディスカッションを行い、問題の解決に向けての検討を行っています。夏休みの旅行やスポーツイベント、鍋などを通して研究室内の親睦を深めるようにもしています。データを解析する力、問題について深く考え、解決を模索する力は実社会に出て必ず役に立つと思います。意欲を持った学生がメンバーとして加わってくれることを心待ちにしています。

<<http://xi.kc.tsukuba.ac.jp>>



吉田 右子 教授 (情報経営・図書館主専攻)

公共図書館は地域住民の生涯学習を支えるコミュニティ・メディアです。情報や学習にかかわる機関は他にもたくさんありますが、あらゆるメディアに含まれる情報の収集・提供・保存を行い、体系的に組織化された情報が司書という情報専門職によって提供される点で、公共図書館はとてモユニークな文化施設です。

しかしこうした公共図書館のもつパワーが十分に利用者に伝わっていないのではないかとこの問題意識から、吉田研究室では図書館が地域にとけ込み、住民が積極的に図書館サービスを利用している北アメリカやスカンディナヴィア地域の公共図書館を対象に研究を行ってきました。最近では社会的・経済的に困難な状況にある人びとに、さまざまなメディアを通じて文化を手渡すための活動を続けている途上国の図書館を研究対象にする学生も増えてきました。

これまでの研究室の卒業研究のテーマは「アメリカの公共図書館における〈遮断された人々〉に対するサービスについて」、「フィンランドにおける公共図書館の役割—ヘルシンキ市立図書館の取り組みを中心として」、「スウェーデンにおける移民・難民への図書館サービスについて」、「日本のNGOによる開発途上国への図書館支援について—公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の取り組みに着目して」、「ネパールにおけるNGOによる図書館設置活動の現状と課題」などです。

海外での調査を自力で終えて帰ってきた研究室の学生は、いつも驚くほどたくましくなっています。ぜひ一緒に公共図書館を再発見しましょう!



スウェーデン ホーグ・ダーレン図書館



デンマーク ルングビュー図書館

知識情報学の研究 ～MLA連携～

知識情報・図書館学類の領域で、近年、注目されている研究テーマに「MLA 連携」があります。

■ MLA 連携とはどのようなものですか？

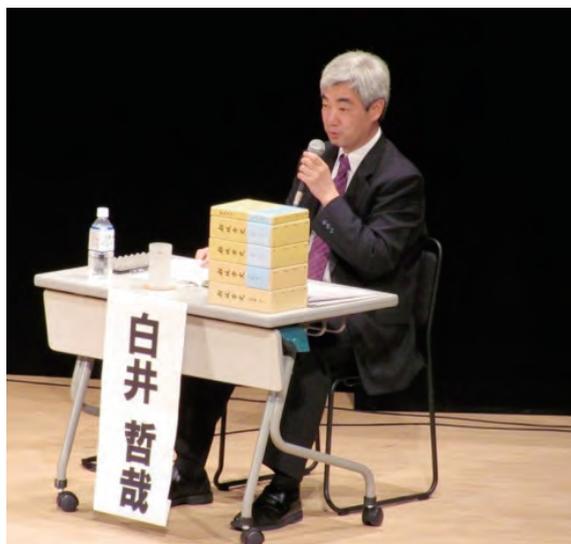
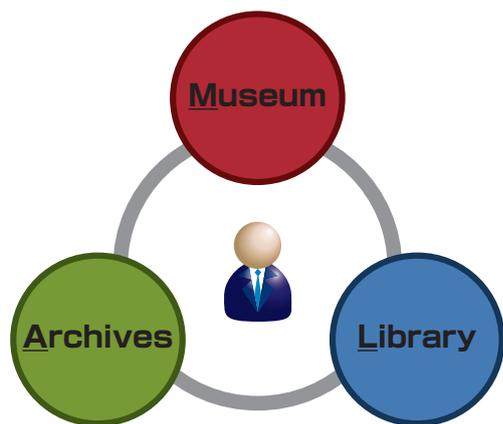
現代社会の「三大文化施設」と呼ばれる施設は、博物館 (Museum)、図書館 (Library)、そして文書館 (Archives) です。図書館は図書を保存して利用に供し、博物館は貴重な文化財を保存・展示公開します。文書館は、まだ日本では数が少ないですが、歴史的に重要な文書記録や近現代の公文書などを保存・利用するための施設です。

この三つの施設は、それぞれ固有の役割と歴史をもって現在に至っています。一方、過去からの貴重な資料や情報を保存し、現在・未来の社会へ発信しようとする点で、各館は共通した機能をもっていると言えます。

そこで、ここ20年あまり、保存・利用の観点から3館が協力していこうとする機運が高まり、世界各地でさまざまな取り組みが行われてきました。この取り組みを3館の頭文字をとってMLA連携と呼んでいます。

■ MLA 連携の現状について教えてください

MLA連携の具体的なあり方は、リアルの面とデジタルの面に分けることができます。リアルの面では、各館が貴重な資料の保存利用でどんな協力関係を結べるか、来館者へのサービスでどんな連携を図れるかなどを考えます。デジタルの面では、インターネット上に各館の資料情報を掲げ、来館しなければ得られなかった知識を横断的に獲得できることをめざします。



宮崎県都城市にて (2010年)

■ MLA 連携の課題について教えてください

MLA連携を実現するためには、本来の各館の業務が適切かつ活発に行われる必要があります。そこには学芸員 (博物館)、司書 (図書館)、アーキビスト (文書館) と呼ばれる専門職員が不可欠です。今、博物館、図書館、文書館が果たすべき役割を見直し、現代社会へそれらの意義を強く発信することが求められています。

MLA連携を図書館の立場から考えるとき、各地の公共図書館がもっている地域資料は大事な存在です。

50年以上前の日本では、図書館が地域のなかでほぼ唯一の文化施設でした。だから、今なら文書館や博物館が保存している歴史的に貴重な資料も、当時は図書館が保存してきました。そのような資料保存の経緯を踏まえ、利用者が各館の貴重な資料へ的確にアクセスできる方法を考えることは、MLA連携の課題のひとつです。

地域資料とは：その土地で発行された図書・雑誌のほか、古写真、数百年前の古い文書記録、図面など

■ 白井教授の研究について教えてください

現在の私の専門分野は、日本アーカイブズ学です。

私はもともと江戸時代の古文書を研究していました。その後、現代の公文書も歴史的に重要な資料であるという意識が社会的に拡がり、公文書の管理や保存についても調査研究を行うようになりました。

2011年の東日本大震災以降、私は被災した古文書や公文書の救出活動に取り組み、茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク（茨城史料ネット）の結成に参加して、茨城・福島・栃木の被災地で活動しました。現在は、福島第一原子力発電所事故で避難を余儀なくされている福島県双葉町役場の支援活動に従事し、震災関係資料の保全と調査研究に取り組んでいます。

■ 研究室の紹介をお願いします

私のゼミでは、1)日本アーカイブズ学、2)図書館地域資料論、3)日本の地方史・地域史などを主に研究しています。

学生たちは、それぞれ自分の研究テーマを決め、参考文献や研究論文を探して読み込み、どこに研究上の問題点があるかを考えます。その一方で、研究テーマを具体的に掘り下げるための各種調査に取り組みます。文献調査、インタビューなど、調査方法はさまざまです。そして自分たちの研究内容を、定期的にゼミで発表します。お互いに質疑応答を交わすと、思いもかけない発見がきます。

私のゼミでは、歴史資料の調査合宿を定期的に行っています。被災地で救出・保全された資料の整理作業に参加することもあります。古文書や公文書が保存されている現地へ出かけて行き、直接手にとって取り扱う経験は、何物にも代え難い感動を覚えます。そのような経験を通じて、過去から伝えられた貴重な文書や記録は、私たちがまた未来へ伝えていかなければならないという使命感を体得してもらいたいと思います。このほか、機会があれば各地の博物館・図書館・文書館の見学会も行っています。もちろん、ときどきみんなで楽しい懇親会もやります。

アーカイブズ学とは：文書館で保存利用できる資料とは何か、それらはどのように保存されてきたのか、それらを未来へ保存し、利用するためにどう取り扱えばいいのかなどを実践的に調査研究する日本では新しい学問

■ 本学類をめざすみなさんにメッセージをお願いします

「好きこそものの上手なれ」という言葉があります。激動する現代、先のことなど誰にもわかりません。そういうときは、さしあたり自分がおもしろいと思うこと、興味ある物事に取り組むといいでしょう。その時に大事なものは、できるだけ広い視野で考え、知識を得ることです。知識情報・図書館学類は、そうしたみなさんの知的好奇心を満たしてくれる場所だと確信します。



東日本大震災による津波被災資料の保全調査（茨城県鹿嶋市 2011年）



福島県双葉町役場が保有した震災関係資料の保全と調査研究
(2013年 筑波大学広報室提供)



歴史資料調査合宿（埼玉県飯能市 2010年）

教員紹介

知識科学主専攻

岩澤 まり子

- 情報組織化
- 情報共有
- 医療情報

後藤 嘉宏

- メディア社会学
- 社会思想史
- マス・コミュニケーション論

鎮目 浩輔

- 機械学習
- 量子情報処理

歳森 敦

- 選択行動モデル
- 選好意識の解明
- 地域施設計画

長谷川 秀彦

- データサイエンス
- ハイパフォーマンスコンピューティング
- 数値線形代数

松林 麻実子

- 情報行動
- メディア分析
- コミュニケーション

横山 幹子

- 知識の確実性
- 知識の共有
- 言語と思考

大澤 文人

- 教育におけるマルチメディアの活用
- 教育におけるコンピュータの活用

三波 千穂美

- サイエンスコミュニケーション
- テクニカルコミュニケーション
- 文書リテラシー

上保 秀夫

- インタラクティブ情報検索
- コンテキスト
- レファレンスサイエンス

中山 伸一

- 情報化学
- 感情予測
- 情報知識化

眞榮城 哲也

- 生命現象の解明
- さまざまなモノの関係性
- 専門知識の利用

三森 弘

- 建築学
- 学習空間デザイン
- ラーニングコモンズ研究

芳鐘 冬樹

- 研究者の生産性
- 研究協力ネットワーク
- 計量書誌学

知識情報システム主専攻

宇陀 則彦

- 電子図書館
- 情報資源共有
- 知識現象の解明

佐藤 哲司

- 情報アクセス
- 知識写像とコミュニティ分析
- コンテンツ工学

関 洋平

- 情報アクセス
- 自然言語処理
- コミュニケーション支援

辻 慶太

- シソーラスの自動構築
- レファレンスサービス
- 図書推薦システム

時井 真紀

- 計算物理
- 計算機シミュレーション

松本 紳

- 計算物理
- サイエンティフィックビジュアルイゼーション

緑川 信之

- 知識の組織化
- 知識資源の組織化
- 分類

若林 啓

- 機械学習
- 統計的言語モデル
- データマイニング

阪口 哲男

- 迷惑メール対策技術
- 次世代のインターネット利用技術
- 情報の蓄積と共有を推進するシステム

鈴木 伸崇

- XML
- 構造化文書
- アルゴリズム

高久 雅生

- 情報科学
- 電子図書館
- 情報検索

手塚 太郎

- 機械学習
- 信号処理

松村 敦

- Web 情報システム
- 情報検索インターフェース
- 絵本の推薦

水嶋 英治

- 博物館学
- 博物館情報学
- デジタルアーカイブ

森継 修一

- 数式処理システム
- アルゴリズム
- 数学的知識

情報経営・図書館主専攻

池内 淳

- 公共図書館政策
- 図書館評価
- ウェブの計量分析

白井 哲哉

- アーカイブズ学
- 図書館地域資料
- 日本地方史

原 淳之

- ヨーロッパの図書館
- 図書館文化史
- 図書館の国際比較

溝上 智恵子

- 大学教育
- 教育政策
- 生涯学習論

LO, Patrick

- 国際比較図書館学
- 音楽図書館学
- 図書館アウトリーチおよび広報

石井 夏生利

- プライバシー
- 個人情報保護
- 情報法

鈴木 佳苗

- 児童青少年の読書
- メディア利用の影響
- メディア教育

平久江 祐司

- 学校図書館経営
- 学校図書館利用指導
- 情報リテラシー教育

村井 麻衣子

- 知的財産法
- 著作権法
- 著作権の制限規定

綿抜 豊昭

- 日本の図書文化
- 江戸の書籍文化
- 和歌・連歌・俳諧

逸村 裕

- 学術情報流通
- 情報利用行動
- 大学図書館

田村 肇

- 経済分析
- 統計学
- コンピュータによるシミュレーション

松縄 正登

- 知的財産法
- 特許法
- 著作権法

毛利 るみこ

- 生涯学習振興・社会教育政策
- 教育関係法規

大庭 一郎

- 情報サービス(レファレンスサービス)
- 公共図書館
- 図書館職員

呑海 沙織

- 図書館文化史
- メディア史
- 知識情報基盤

松本 浩一

- 人文学の資料
- 資料のデータベース化
- 中国文献学

吉田 右子

- 公共図書館論
- 生涯学習
- 図書館史

入試

学類説明会は2014年7月23日(水)です
 実際の大学を知るにはこれが一番。大学のことを知れば勉強意欲もわいてくる。

大学説明会は8月下旬です

一般入試

大学入試センター試験と個別学力検査に基づく選抜(分離・分割方式)
 募集人員 前期日程60名 後期日程15名

前期日程はオールラウンドな人向け

選択科目(地歴・公民・理科)と数学、外国語、センター試験。数学は数Ⅱと数Ⅲでも受験できる。

後期日程は広い視野と独創性を重視

センター試験と小論文。小論文で自分の考え方をしっかりまとめるのがポイント。

推薦入試

高等学校長の推薦に基づく選抜
 募集人員 20名

論理的思考力とコミュニケーション能力

小論文では、論理的に考え、それをきちんと表現できるかが重要。
 面接では自分の考えをはっきり伝えること、説得力がポイント。

AC入試

自己推薦に基づく選抜
 募集人員 5名

自分自身の課題でトライ

自分で見つけた課題に自ら取り組み、その成果を自己推薦書として提示。
 未知の課題を発見し、解決する能力をどれだけアピールできるかがポイント。

私費外国人留学生入試

日本留学試験とTOEFL、小論文、面接による選抜
 募集人員 若干名

知識と情報について学ぶ意欲と日本語能力

小論文は日本語で論理的に表現できるかがポイント。
 面接には知識と情報について学びたいという意欲をもって臨むことが大切。

日付は2014年4月から2015年3月の間

| 試験 | 募集人員 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表 | 入試科目 | 配点 |
|--------------------------------|------|------|-----|------|--|-----|
| AC入試 | 5名 | 9月 | 10月 | 10月 | 第一次…書類選考、第二次…面接(募集要項は6月公表予定) | - |
| 推薦入試 | 20名 | 11月 | 11月 | 12月 | 小論文と面接 | - |
| 大学入試 センター試験 | - | 10月頃 | 1月 | - | 国語 国語 | 200 |
| | | | | | 数学 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、工、簿、情報から1 | 200 |
| | | | | | 外国語 英(リスニングテスト含む)、独、仏、中、韓から1 | 200 |
| | | | | | ① 地歴 世A、世B、HA、HB、地理A、地理Bから1 | 100 |
| | | | | | 公民 現社、倫、政経、倫・政経から1 | 100 |
| | | | | | 理科 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 または物理、化学、生物、地学から1 [6教科7~8科目] | 100 |
| ② 地歴 世A、世B、HA、HB、地理A、地理B } から1 | 100 | | | | | |
| 公民 現社、倫、政経、倫・政経 | | | | | | |
| 理科 物理、化学、生物、地学から2 [5教科7科目] | 200 | | | | | |
| 個別学力検査 前期日程 | 60名 | 1月頃 | 2月 | 3月 | 数学 数Ⅱ・数B、数Ⅲから1 | 400 |
| | | | | | 外国語 英Ⅱ・リーディング・ライティング、独、仏から1(事前選択) | 400 |
| | | | | | 地歴 世B、HB、地理Bから1 公民 倫 理科 物理基礎・物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、地学基礎・地学から1 | 200 |
| 個別学力検査 後期日程 | 15名 | 1月頃 | 3月 | 3月 | 小論文 | 200 |
| 私費外国人 留学生入試 | 若干名 | 1月頃 | 2月 | 3月 | 日本留学試験(文科系または理科系)、TOEFL、小論文、 面接 | - |
| 3年次編入学 | 10名 | 6月 | 7月 | 7月 | 面接・口述試験(募集要項は4月公表予定) | - |

詳細は必ず「入学者選抜要項」及び「学生募集要項」(2014年9月公表予定)を参照してください。大学入試センター試験においては、①または②を選択してください。

問い合わせ先 筑波大学 教育推進部 入試課 電話 029-853-6007

進路

■「自分にマッチ」したフィールドを!

知識情報・図書館学類の魅力は、文理融合型カリキュラムによって、知識と情報、人間、社会に関する基礎的な知識と技術を広く学びながら、自分が深めたいと思う専門領域を見つけられるところにあります。基礎教育を重視したカリキュラムは、将来、多様な分野で活躍できる下地をつくります。三つの主専攻ではそれぞれ専門的な知識と技術を修得することができます。大学4年間を通じて、知識情報にかかわる広大な世界に触れることは、みなさんの可能性を広げることになるでしょう。知識情報・図書館学類では、隠された自分の可能性を発見し、「自分にマッチ」したフィールドにたどり着くことができます。

■進学

本学はもとより、他大学の大学院に20~25%ほどの卒業生が進学しています。知識情報・図書館学類の教員が所属している大学院として、2年間の博士前期課程(修士課程)と3年間の博士後期課程(博士課程)からなる図書館情報メディア研究科があります。図書館情報メディア研究科には推薦入学の制度があるので、学類での成績が優秀ならば早い時期から自分の進路を定めることもできます。いろいろな専門分野を学んできた多数の大学院生とともに切磋琢磨し、より高度な知識と技術の修得、先端的な研究を行います。こうして身につけた能力を活かして、博士前期課程修了後にはより高度な専門性を必要とする職業に就くことができます。さらに博士後期課程へ進み、大学教員や研究者をめざす道もあります。また、図書館情報メディア研究科では夜間や土曜日に学習・研究ができるように、東京キャンパス文京校舎に東京サテライトを設けていますので、社会人として仕事をしながら大学院で研究を続けることもできます。

■資格取得

将来へのきっかけとして、大学在学中に資格取得を考えてみるのもよいでしょう。資格取得はスキルアップにもなりますし、自分への自信にもつながります。将来、どのような職に就いても、「知識」と「経験」はかならず力になります。

知識情報・図書館学類では司書資格、司書教諭資格、教員免許状が取得できます。司書教諭資格は、司書教諭

科目を履修し教員免許状を取得することで取得できます。教員免許状は、中学校教諭一種免許状(社会・数学)と高等学校教諭一種免許状(公民・数学・情報)が取得できます。

また、自分の可能性を広げるため、TOEIC (Test of English for International Communication) や TOEFL (Test of English as a Foreign Language)、初級システムアドミニストレータ試験、基本情報技術者試験、経営学検定試験(初級)、図書館情報学検定試験などの受験を勧めています。定められた科目を履習して、JTCA(5ページ参照)に申請することにより、テクニカルコミュニケーター専門課程修了認定を受けることもできます。

■就職

知識情報・図書館学類の卒業生は、さまざまな分野で活躍しています。右図のように、就職先は、大きく「公務員・図書館・学校等」と「企業」に分けることができます。「公務員・図書館・学校等」では出身都道府県に就職する学生も少なくありません。また、企業への就職では、出版社、書店・取次、IT企業、インターネット関連会社、通信会社、銀行、サービス業などがあります。

今後ますます、知識の本質を理解したエンジニアや企画経営能力を有する開発者など、多様な視点をもった人材が必要とされ、実際にそうした人材を輩出しています。

■就職支援

知識情報・図書館学類では、学生の希望進路ごとにきめ細やかな就職支援を行っています。企業系志望の学生のためには、進路説明会や学生間で情報を共有するための「進路情報カフェ」などを実施しています。「進路情報カフェ」は、和やかな雰囲気のなかで学生が少人数で気軽に就職についての情報交換ができる場になっています。

公務員・図書館志望の学生のためには、公務員採用試験に向けて独自の教養試験対策を行っています。2年次の10月から4年次にかけて合計40回を超える「公務員試験準備講座(教養模擬試験)」を隔週で実施しています。また、公務員採用試験の受験のステップに応じて、志望理由書の執筆、機関訪問の準備、2次試験の面接に向けたアドバイスなども行っています。

さらに、学生の個別相談に対応するため、進路指導担当教員のほか、独自にキャリアアドバイザー（週1日）を配置し、気軽に相談できるようにしています。就職説明会やOB・OG会社説明会なども開催しています。就職説明会では、キャリアアドバイザーによる就職活動のポイントについてのアドバイスや、進路（公務員、企業、大学院進学）別に先輩からの話を聞くことができます。また、全学レベルでのキャリア支援活動も受けることができます。

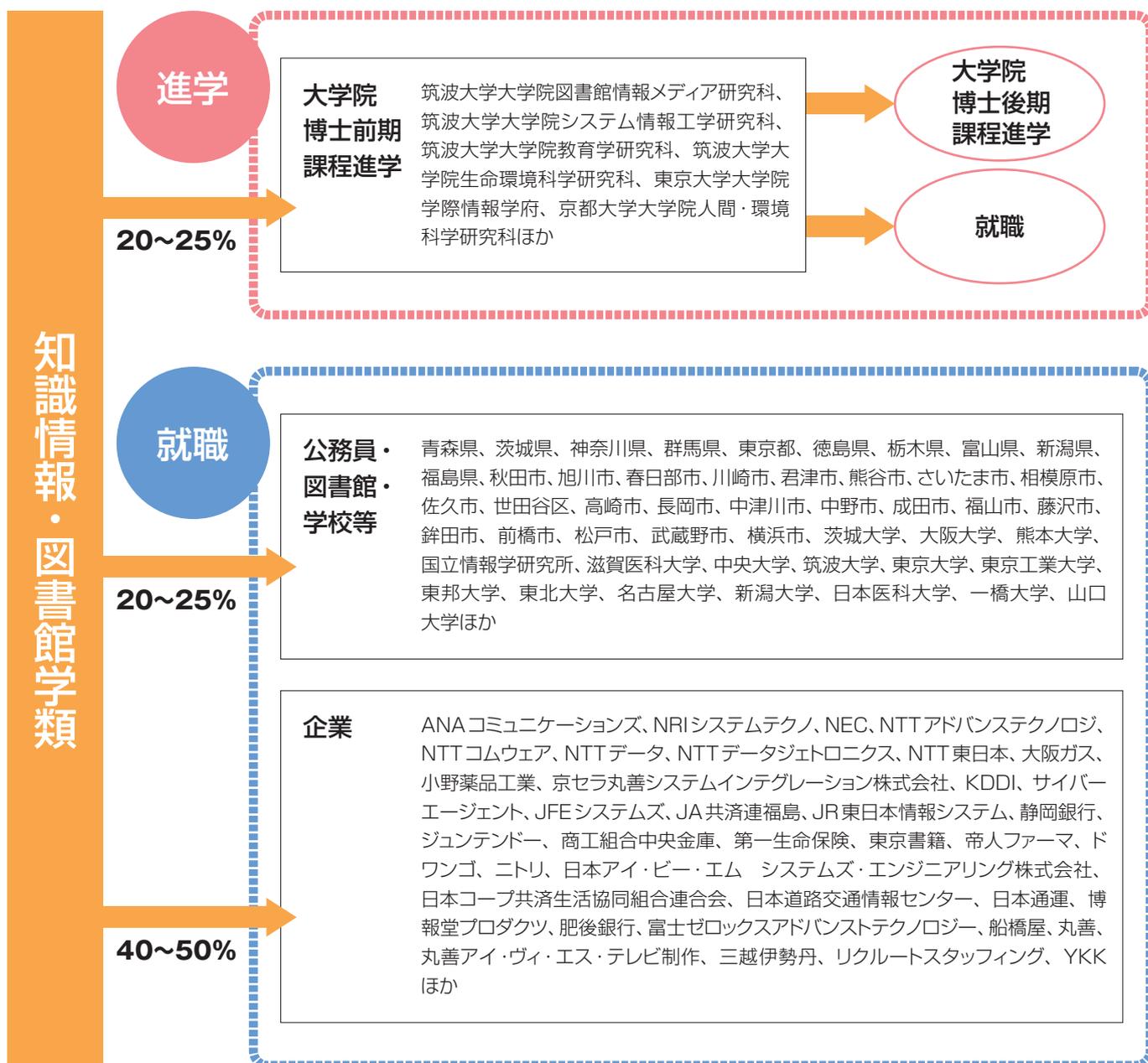


就職説明会



教養模擬試験

卒業生の主な進路



4年生から～進路編～



自分をもっと磨ける場所へ

村元 俊一郎 MURAMOTO Shunichiro

(進学)

私は、作曲や物語制作、イラスト制作などといった「創作活動」を支援する研究を行っています。趣味丸出しの研究テーマで、一見すると知識情報・図書館学類とは関わりがないように思えるかもしれませんが、創作のアイデアを出すための知識獲得に着目してみたり、支援を実現するシステムを構築するためにプログラミングやデータベースの技術が必要になったりと、この学類で学ぶことと密接に関わっています。

私は、「創作活動支援」の研究を深めていきたいと思い、図書館情報メディア研究科への進学を決めました。進学後は、知識や情報の流通についてのさらなる理解と、関連する技術の習得を行い、自分の研究への応用を模索しつつ、学会発表やゼミなどさまざまな人と意見を交わしあえる場を利用して、社会的なスキルも高めていこうと考えています。

さて、大学受験では志望大学別に対策をとってくれたり、先生の手厚いサポートがあったりすると思います。しかし、大学院進学については、自分から動かなければ何も始まりません。大学院説明会の日時をその当日に知ったときは、少し肝を冷しました。口述試験の対策では、研究室の先生や多くの先輩方から連日アドバイスをいただき、自信をつけた記憶があります。求めればかならず力になってくれる人がいるはずですので、自分のやりたいこと、めざす進路に向かって積極的に行動してみてください。

また、耳にタコができるほど聞かされている話かと思いますが、進学でももちろん英語が必要です。残念ながら、周囲にはよく大学入れたなあというレベルまで英語力が落ちてしまっている大学生が多い気がします(自分も例に漏れませんが…)。英語の授業もしっかり設けられていますので、その機会を利用して英語を自分のなかに定着させるとよいと思います。

大学では、積極的に行動を起こしていくことで講義以上のものを得ることができますし、周囲の人もかならず力になってくれます。4年間で多くのものに出会い、多くのものを得ることになりますが、そのなかでまだ学び足りない、もっと知識を得たいと思ったなら、大学院への進学を考えてみてください。



司書職をめざして

床井 満里菜 TOKOI Marina

(公務員)

私は、図書館員として働きたい思いが強く、知識情報・図書館学類に入りました。そのため、公共・大学図書館を目標として、公務員試験と専門となる図書館情報学を勉強しました。この4年間を通して行きたいところに就職できたのかなという思いがあります。

本学類には、司書職を含め、公務員をめざす人がおり、一緒に勉強し、分からないところを教え合い、目標を分かち合うことができます。実際、特に私は司書職を希望していたため、受験会場に同じ学類生が少なくとも2人はいる状態でした。逆にいえばライバルであり、これから、お互いに戦わなくてはならないという複雑な思いがありましたが、仲間がいる安心感や一緒に頑張ろうという向上心がお互いを引

き上げたと思います。

また、司書職受験は難しい部分があります。図書館情報学の全体を通した本はまだ数冊しかありません。そのため、司書職の専門試験を受けるための問題集はさらに少なく、広く深く図書館情報学を勉強するには自力では困難でした。しかし、その情報量の少なさをカバーしてくれたのが、学類のカリキュラムと図書館情報学図書館でした。専門試験において問題を解く際に思い出されるのは実習や講義の内容であり、4年間で図書館情報学が身につけていたことを実感しました。また、本学類では図書館「情報」学を取り扱っているため、図書館のシステムチェックな部分を学ぶことができ、将来的な図書館像を見据えるとともに、技術も身につけ、これらも面接等で活かされたように思います。学類に特化した図書館でもある図書館情報学図書館には、図書館情報学に関する資料がたくさんあり、公務員試験の教養力を高める図書も置かれているので、基礎的な勉強と司書の専門試験のための勉強の両方を助けてくれました。

本学類は図書館大好き少年少女にとって魅力的な学類であるのはもちろんのこと、IT系や出版業界など、図書館に関わりのある周辺の仕事についても知る機会が多々ある学類です。そして、図書館情報学の権威の先生方や、図書館情報学を広く深く学べるカリキュラム、頼れる同期やOB・OGがいます。司書職をめざすにあたって、本当に整えられた環境がここに 있습니다。



自分に合ったフィールドを見つけた！

宮本 奈緒 MIYAMOTO Nao

(企業)

知識情報・図書館学類という名前を聞くと、就職先は図書館！というイメージがあるかもしれませんが。しかし、自分も含め企業に就職する学生も多数います。

本学類は文系から理系まで幅広いカリキュラムが組まれています。そのため、視野を広くもつことができ、さまざまな視点から図書館をみることができます。たとえば、図書館で使われる検索システムのOPACを作成する授業も存在します。そこからプログラミングに興味をもち、IT企業に進む学生も多数いるのです。図書館で働くことだけが図書館にかかわる仕事ではありません。図書館に置く本を扱う取次や、出版、図書館の建築やデザイン、web作成などさまざまな分野があり、それらを学んでいける

のです。私が地方銀行への就職を決意したきっかけは、公共図書館などから広がる地域発展に興味をもち、地域に根づいた場所で地域の発展に貢献したいと思ったからです。

また、企業説明会も随時開催されており、OB・OGの先輩方のお話を聞くことができます。実際に働く生の声を聞くことができ、具体性をもちながら企業の知識を身につけることができます。多数の企業から求人オファーがきます。進路に悩んだときは、キャリアアドバイザーもいらっしゃいますし、先生方も親身になって進路相談に乗ってくれます。こういった、企業就職を希望する学生にも安心なサポートがついています。

この学類ではやりたいことができる環境が整っていると思います。また、具体的にやりたいことのみつまっていない学生でも知識情報学を通し、幅広い分野にふれることで、自分に合ったフィールドを見つけることができると思います。困ったことがあれば、周りには仲間がいます。一人ではなく、同じ分野を学ぶ者同士、互いに高め合いながら学習をしていけるのではないのでしょうか。

大学生活はさまざまなことにチャレンジをするチャンスです。大学生でしかできないことがたくさんあります。そのさまざまなチャレンジのなかで自分に適した道を選び、素敵な進路を選んでいただけたらと思います。

春日エリアのキャリア相談室より

キャリアアドバイザー 神村 孝子

2012年4月より毎週金曜日に相談業務を行っています。相談内容は就活に限らず、「将来を意識した大学生活についてどう過ごしたいか」なども相談できます。学類生から大学院生の方まで学年問わず、多くの方に利用していただいています。

個別相談のほかには「進路情報カフェ」など、学生さんが少人数で気軽に情報提供できる場も作ってきました。進路に不安はつきものですが、同じ状況の人と話すことでほっとできる場になっているようです。加えて、『お仕事研究カフェ』と称して大学図書館員や国大法人事務職の方を招いて懇談し、実際の仕事を具体的にイメージするための試みや、『進路説明会』では「企業」「公務員」「大学院進学」などに決定した4年生から活動の流れや自分の体験を学生目線で語っていただいています。参加した学生さんからは「体験を聞くことで自分がこれからすべきことが明確になった」などの感想が寄せられました。

私自身、天王台エリアの就職課の就活アドバイザーも兼務していますので、就職課主催のイベントなどの情報提供もしています。就職課主催のイベントでは、企業の人事担当者やOB・OGが来学し身近に質疑応答ができる『学内企業説明会』(2013年12月には637社参加)や、面接対策などのための『就活フォローアップ講座』など実践に役立つものが数多くあります。イベントや個別相談を通じて他学類の人やさまざまな社会人と接することは進路への意識を高めるよいきっかけになると思います。



学生生活 Q&A

Q 学類のホームページは？

A 学類のホームページは、<http://klis.tsukuba.ac.jp/> です。学生生活に関するさまざまな情報を提供していますので、アクセスしてみてください。

Q 学生宿舎はありますか？

A 春日エリア内に春日学生宿舎があり、春日エリアの新入生は優先的に入居できます。全室個室、ベッド・机・椅子つきで、LANの設備もあります。寄宿料8,000円と共益費7,035円で月額15,035円（2014年4月1日現在）です。これにプラスして個室電気料が2,000円程度（個人使用分）、コインランドリー代1回100円、シャワー代9分100円がかかります。また、徒歩15分～20分のところに、追越学生宿舎と平砂学生宿舎があります。



Q アパートは紹介してもらえますか？

A キャンパスの近くには学生向けのアパートがたくさんあります。台所と6畳の1Kで3～5万円程度で、徒歩や自転車で通える範囲から探すことができます。情報の提供は学生生活課で行っていますが、ほかに、地元ミニコミ誌が毎年秋に最新のアパート情報を掲載した小冊子を出しています。

Q 入学金と授業料は？

A 2014年度の場合、入学金は282,000円、授業料は年間535,800円です。なお、入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな納付金額が適用されます。

Q 授業料免除の制度はありますか？

A 全額免除・半額免除・1/3免除があります。2013年度知識情報・図書館学類の場合、免除者は約30名でした。

Q どんな奨学金がありますか？

A 日本学生支援機構による奨学金制度には、無利息の第一種奨学金と利息つきの第二種奨学金があります。

2014年度の場合（月額）

●第一種奨学金（希望額を選択）

[自宅通学者] 30,000円、45,000円

[自宅外通学者] 30,000円、51,000円

●第二種奨学金（希望額を選択）

30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円

その他、筑波大学学生奨学金「つくばスカラシップ」、地方自治体や財団法人による各種奨学金制度もあります。

Q 奨学金の貸与を受けている人はどのくらい？

A 2013年度知識情報・図書館学類の場合、日本学生支援機構の第一種奨学生は68名、第二種奨学生は70名でした。

Q 授業時間はどのくらいですか？

A 1時限は75分で、休憩時間が15分です。昼休みは50分あります。1時限目は8:40に始まります。

Q 授業のある日は？

A 春学期（4月1日～9月30日）、秋学期（10月1日～3月31日）、それぞれに3つのモジュール（A、B、C）があり、この期間の月曜日から金曜日に授業があります。週2時限で10週間の授業に試験またはレポートが基本ですが、5週授業（週4時限）、15週授業（週1時限）、30週授業（週1時限）の科目もあります。土曜や休暇中の集中授業もあります。夏休みは8月中旬から9月末まで、冬休みは12月下旬から1月上旬、春休みは2月中旬から4月上旬までです。

Q 休日に図書館や実習室が使えますか？

A 図書館情報学図書館が9:00から22:00（土日祝10:00から18:00）、春日エリアの実習室が8:00から22:00で、休業期間中は短縮されます。春日エリア外の図書館や実習室も利用できます。ただし、授業のため利用できない場合があります。なお、コンピュータシステムは基本的に年中無休でいつでも利用できます。

Q パソコンは必要ですか？

A 春日エリアには、約230台のパソコンが設置されており、自由に使うことができます。ただ、自宅や宿舎で好きな時間に利用するために、多くの学類生は自分自身のパソコンを持っているようです。春日エリアのすべての教室では無線LANが使い、春日学生宿舎のすべての個室には情報コンセントがあります。

Q 個人のWWWページをつくれますか？

A 全員が電子メールアドレスをもち、個人のWWWページを公開できます。

Q どんなコンピュータが使えますか？

A 学生全員が使うコンピュータシステムではWindowsとLinuxの両方が使えます。



Q 健康相談はできますか？

A 保健管理センターで、けがや病気などに対応できる体制になっています。学生生活で生じた不安や悩みなどは、専門のカウンセラーの先生に相談できます。また、スチューデントプラザと春日エリアには総合相談窓口があり、気軽に相談できるようになっています。

Q スポーツや文化活動の施設は？

A 筑波大学にはさまざまな施設がありますが、春日エリアには多目的グラウンド、体育館、テニスコート(5面)、弓道場などのスポーツ施設があります。また文化系サークルのスペースとして共用室や和室があります。

Q どのくらいのサークルが活動していますか？

A 筑波大学には100をこえる課外活動団体があります。

Q 学食や売店はありますか？

A 春日エリア内には学食と売店(書籍・文房具)があります。

Q 大学構内の移動は？

A 路線バスを使って大学中央や他エリアに移動できます(平日8:00~21:00は10分間隔)。学生は年間8,600円の学割定期券で、つくばセンターから大学構内までの路線バスをいつでも自由に乗り降りできます。また、自転車で移動する学生も大勢います。

Q 新入生の時間割は？

A たとえば1年次の入学当初はこんな時間割になります。

| | 1時限 | 2時限 | 3時限 | 4時限 | 5時限 | 6時限 |
|---|--------|-----|--------|-------|-------|-----|
| 月 | 総合科目Ⅱ | | 第2外国語 | 第1外国語 | | |
| 火 | 情報基礎 | | 知識情報概論 | | | |
| 水 | 情報数学 | | リソグラフィ | | | |
| 木 | 情報基礎実習 | | 第2外国語 | 第1外国語 | | |
| 金 | | | 体育 | | 第1外国語 | |

Q 交通の便は良いですか？

A 春日エリアから徒歩10分につくば駅からは、つくばエクスプレスで秋葉原まで45分、高速バスで東京まで約90分から110分です。また、羽田空港、成田空港へのバスもあり、どちらも100分ほどです。

Q 近くで買い物ができますか？

A 春日エリアから徒歩10分につくばセンター(つくば駅)と3キロほどの研究学園には、それぞれ大きなショッピングセンターがあります。さらにコンビニエンスストア、書店、スーパー、百貨店、家電量販店なども近くにあり、買い物にはとても便利です。



Q 近くに文化施設はありますか？

A 春日エリアから徒歩数分のところにプラネタリウムや県立美術館、市立図書館などがあります。



Q 新入生の1日は？

A 新入生はこんな1日を過ごしています。

- 7:00 目覚まし時計が鳴る。まだ眠いが二度寝が怖いので起床
- 7:20 朝食は簡素に。朝から料理するのは無理
- 8:30 宿舎から教室までは3分ほどだが、余裕をもつにはこのくらいに出ないと……
- 8:40 1、2時限、情報基礎実習
- 10:40 今日の実習項目終了。早く終わったら帰ってもよいのがこの科目のよいところだ
- 11:30 昼食。今日は友人と学食で食べよう
- 12:15 3時限目は中国語。外国語と体育、そして総合科目Ⅲは別のエリアで受けるので、自転車は手放さない
- 13:45 4時限目、英語
- 15:15 宿舎に帰り着く。今日の5、6時限目は空き時間。英語の宿題をしておこう、英作文は何について書こうかなあ
- 17:15 サークルに行く前に風呂に入っておこう
- 18:15 さて、サークルだ。もうすぐ公演だからがんばらないと
- 20:30 今日はいつもより早く終了。帰る前に買い物だ
- 21:15 買い物を終えて帰宅
- 22:40 宿舎の仲間と話をしながら夕食
- 23:30 寝る前にちょっとだけパソコンを立ち上げてブログを更新。宿舎にLAN回線が通っているので便利
- 0:00 就寝。明日も1日ががんばろう……

3年次編入

1. 編入について

知識情報・図書館学類では、次の2種類の編入生を受け入れたいと考えています。

- ①類似した領域から来て、そこで習得した知識・技術を深める
- ②異なる領域から来て、そこで習得した知識・技術をもとに新しい道をめざす

①のタイプは、たとえば短期大学で司書資格科目を履修したり、高等専門学校で情報工学を専攻したりするうちに、より専門的に学びたいと考えようになった人たちです。②のタイプは、たとえば法律学や化学を学んで、その知識を知識情報学(図書館情報学)のなかで活かして法律図書館や化学情報といった今までとは異なる領域について学びたいと考えようになった人たち、あるいは情報工学を技術的側面から学んできたのちに社会的側面からも学びたいと考えようになった人たちなどです。

2. 入学試験

入学試験では、学習計画書を提出していただき、その内容について30分程度の面接・口述試験を行います。

学習計画書には、自分は①のタイプなのか、あるいは②のタイプなのかをよく考えて、2年間の大学生活でどのようなことを学びたいのかをまとめてください。学習計画書を補足するための資料を添付してもかまいません。

面接・口述試験では、10分程度でこれまでの学習内容、志望の動機、これからの学習計画などについて説明していただきます。試験時に説明用資料を配布することもできます。

編入学試験では、その時点での学習計画をきちんと説明できることが重要で、入学後にその学習計画を変更してもかまいません。

3. 入学

合格発表後、8月末の土曜午後に東京キャンパスで合格者向けのガイダンスを実施します。カリキュラムや単位認定についての概要を説明したうえで、クラス担任予定者や教育課程の教員が、個々の合格者ごとに単位認定の見通しの試算や主専攻選択について個別面談を行います。例年、ガイダンスでの単位認定見通しを受けて、在籍校での履修計画を見直す人が多く、結果的に編入学時の認定や入学後の履修がスムーズに進むようです。

卒業に必要な単位数の約半分を、編入学時までの学修内容に応じて単位認定します。これまでの実績では55単位~69単位、平均すると62.8単位が認定されています。卒業に必要な単位数は125.5単位ですから、編入学後63単位前後の履修が必要になります。1年次入学の標準的な履修プランでは1・2年次で約80単位、3・4年次では約50単位となっています。

知識情報・図書館学類生としてかならず学んでほしい科目は単位認定の対象外なので、1・2年次に混ざって受講する必要があります。この場合、同じ時間帯に開講される3・4年次向けの専門科目は4年次に受講することになります。

編入学者は3年次生として、三つある主専攻のひとつに所属し、1年次からの学生に混ざって主専攻実習や専門科目を学びます。卒業研究の研究室配属は3年次秋に行います。

背景が異なるさまざまな編入生を受け入れるため、クラス担任を中心に、学習計画の指導に力を入れることになっています。計画的に履修すれば司書資格の取得は可能ですが、教員免許状を2年間で取得するのは不可能です。

4. 説明会

2014年4月26日(土) 13:30から春日エリアの情報メディアユニオンにおいて編入説明会を行います。

先輩の声

住み慣れた地元を離れ、つくばでの暮らしもうじき四季が一周します。

この1年は、編入を決め、一人暮らしを始め、大学であたふたと過ごし、これまでの私の人生のなかでいちばん選択が多く変化に富んだめまぐるしい1年になったと思います。

編入の決め手は、知識情報学の幅の広さでした。自分の専門分野を深めるもよし、新しい分野へ進むもよし、自分の好きなことがなんでも実現できる、知識はとて懐の深い学類です。

私は高専の電子情報工学科出身ですが、編入後はシステム系でなく、情報経営・図書館主専攻へ進みました。論文を書いたり、文化の歴史を学んだり、数式やプログラミングの世界とはまた違う大変さがありますが、両方の感覚を知っていることを強みに、将来につなげたいと思っています。

もちろん、理系も大好きなので、他の学類の講義を受けてみたり、つくば市内の研究所で物理の実験合宿に参加したり、筑波大生という立場を最大限に活用して、楽しく勉強しています。

編入の仲間たちは、バックグラウンドや得意分野がそれぞれ違い、刺激的な存在です。いざとなったら助け合える心強い存在でもあります。また、いろいろな学年の授業をとることになるので、新鮮な環境で出会いの幅も広がります。

編入というと、忙しくて友だちできなくて、あつという間に卒業じゃないか!と不安になることも多いかもしれませんが、実際はそんなことに悩む暇もないほど、充実した毎日を過ごすことになりますよ。ぜひ、筑波大学へ!



松山 麻珠
MATSUYAMA Asami
(高専出身)

情報経営・図書館主専攻



テボーレビ・マリム
TEBOURBI Mariam
(専門学校出身)
知識科学主専攻

東京にある情報系の専門学校から知識情報・図書館学類に編入してきました。私の学生生活の経験について話したいと思います。

つくばに引っ越す前は、新しい生活や環境、友だち、単位認定などについてまったく想像がつかなくて不安でいっぱいでした。

入学してもうすぐ一年経ちますが、あの頃を振り返ってみると私の不安が一切不要だったことがわかりました。

2013年度の編入生のなかで私しか留学生がいなかったのですが、編入生のみんなとも学類に元からいる学生さんともすぐに友だちになることができました。みんなはそれぞれの環境から来ていて、一人ひとりの特徴や得意分野があります。そのため、一緒に大学生活を過ごすことがとても楽しいし価値が高いです。勉強のことで困ったら助け合ったりもしますので、まるで家族みたいな感じです。

また、春日エリアは色々な設備やサークルなどがあって学生生活も便利で楽しく過ごせます。

授業は決して簡単なものではありません。先生方はみんな優しく、いつでも相談ののってくださるのですが、レポートや試験が多くて大変なんです。しかし、その勉強の辛さを前向きに乗り越えることも楽しいです。

受験生のみなさん もぜひ頑張って筑波大学へ入学してください。さまざまな人と出会って勉強を楽しんでいい思い出を作りましょう。カルペ・ディエム!

3年次編入のためのQ&A



Q. 編入学した人の出身は?

A. 年度によって異なりますが、高等専門学校と短期大学出身者が多いようです。高専での学科は、情報工学科、電子情報工学科のみならず、電子制御工学科、電子工学科、電気工学科、機械工学科、環境都市工学科まで多彩です。2014年度の場合、高専12名、短大3名、大学3名です(定員10名)。

Q. 学生宿舎には入れますか?

A. ほとんどの人は最寄りの春日宿舎に入れますが、時として遠越宿舎(徒歩約15分)が割り当てられることもあります。

Q. サークルは入れますか?

A. 多くの人がサークルに入っています。

Q. 知り合いは多くできますか?

A. 入学直後の2日間連続のオリエンテーションなど、編入生同士が出会う機会が多く、毎年仲良くやっているようです。また、1・2年次生と同じ科目を履修するため、学年を越えた知り合いも沢山できます。

Q. 他学類・他学群の授業は取れますか?

A. 可能です。ただし、短期間に多くの科目を取らなければならない編入生にとっては、現実にはかなり厳しいと思われるます。

Q. 文系学生はプログラミングや数学が大変?

A. 大変です。ただし、理系か文系かで決まるのではなく、個人のやる気に依存します。数学もプログラミングも専門家を育てるためではなく、どのような分野でも必要な数学的な考え方、論理的思考力を養うための科目となっています。

先輩から



村田 龍太郎 MURATA Ryutarou

知識情報・図書館学類1年

その昔、私はここ、知識情報・図書館学類が図書館について学ぶ上では日本一だと信じ、司書志望で入学したのでした。しかし、ふと気づくと私は哲学や法制度を学んでいて、さらには統計やプログラミングにも取り組んでいる生活を送っていました。ここで、「学ぶ」のページに戻ってこの学類の卒業研究では何が行われているかをみてみてください。さまざまな分野の研究が行われていることが分かると思います。そうなのです、この学類は本当に文理融合なのです。

みなさんはもしこの学類に入ったとしたら、やろうと思えばなんでもできるこの環境で何を学ぶのでしょうか。時間割が自分で決められ、学びが授業だけでは完結しないという大学生活においては、自分から学びに行くことがとても大切です。この学類は幅広く学べるがゆえに、これを学びたいと思うものにみなさんを惹きつけ、出会うきっかけを与えてくれると思います。ちなみに私は入学してから教育にも興味が出て、教員免許の取得もめざしています。

こういう学びの幅広さのもとに文系・理系両方から人が集まるからか、この学類ではいろいろな人がいて、しかもその多様さを受け入れようとする雰囲気があるように感じています。穏やかな人がいて自分の居場所を作ってくれたり、学びがとても好きな人がいて一緒に一晩語り合ったり……。私も入学当初は不安でしたが、充実した人間関係をしっかりと築けることを実感しました。

私はほかのどこでもない、知識情報・図書館学類に来て本当によかったと思います。ぜひともこの学類と一緒に学びましょう。

梅宮 朝雪 UMEMIYA Asayuki

知識情報・図書館学類1年

みなさんは、大学ってどういうところだと思いますか？

私が大学に実際に入って感じたのは、「物知りの人が多い」ということです。この学類なら、メディアやコミュニケーション、文学や法律のこと、システム系のことなど、図書館だけには留まらない関連項目に詳しい人がたくさんいます。

さらに知識情報・図書館学類では、KLC(春日ラーニングcommons)という学習サポート環境があります。ここには物知りの上級生がいて、授業でわからなかったところを質問すると解決のヒントを与えてくれます。答えではなく、ヒントなのです。

たとえば1年生の授業で多くの人が苦勞するであろうプログラミング演習。「課題に対してこういうプログラムを書いたけれど、実行結果が予想と違うのはなんで？」と質問にいくと、「プログラムのこの部分はどういうふうに働いているか考えてみましょう、どこそこに解説が載っているよ」と答えてくれます。このように、自分が苦手な分野でも助けてくれる人がきつといます。また逆に、自分が得意な分野で人を助けることもできるのです。

自分が得意分野を作るためにできることはたくさんあります。授業をしっかりと理解して、後輩に説明できるようになるのもそのひとつです。講演会やセミナーなど学外のイベントでも「知識情報学を勉強しています」と言えば講師の方はいろいろなことを教えてくれると思います。

幅広い分野に関心を持って学べるのがこの学類の強みだと私は考えています。みなさんもこの学類でいろんなことを学び、また学んだことを伝えられるようになりませんか？



伊藤 洸紀 ITO Kouki

知識情報・図書館学類2年

私がこの学類の存在を知ったのは、中学3年のときだったように思います。その当時の私は図書委員を務めており、また学年で1、2を争うほどの図書室通いをしていました。ある日の放課後、私は図書委員の仕事のひとつである本の整理をしながら、図書室の職員の方々と進路について話していたのです。司書や民間の出版業界など、本に関わるような仕事に興味をもっていた私に、ある職員の方が紹介してくださったのがこの知識情報・図書館学類でした。

無事この学類に入ることができ、大学生活をともに送る仲間たちを見渡すと、本当にさまざまな人がいます。違う価値観を有している人、バイタリティに富んだ人、とても優秀な人……。高校までに比べ、大学では私たちがどのような人たちとどう過ごし、どう変わるかという選択権は、私たちの自由意思に委ねられています。

堅い話が続きましたが、私にとっての大学は面白く、楽しいところです。授業では大変なことや頑張らなくてはならないことがありますが、志望して入った学類であることもあり、興味深い授業もあります。また、共通の趣味を深く話すことができる学友も数多くいます。少しでもこの学類に興味をもっている方であれば、きっと充実した大学生活を送ることができると思います。

先輩であるみなさんがこの学類に入ってくるのが楽しみです。それでは、みなさんがこの学類の門をたたいてくださることを期待して。



小板橋 優 KOITABASHI Yu

知識情報・図書館学類2年

知識情報・図書館学類と聞いて、みなさんにはどのようなイメージが浮かびますか？おそらくほとんどの方は「図書館」という言葉通り、図書館について勉強できる場所だと思われるのではないのでしょうか。

しかし、実際に入学してみると、この学類はけっして図書館だけにはとどまらず、「法律や経営学、データベースの成り立ち、多数の言語によるプログラミング」といった、実に多くのことを学ぶ学類であることが分かります。この幅広い授業内容を少しずつ理解していくことで、将来自分のやりたいことが見えてきて、将来のために必要となるスキルを身につけることができます。また、文系理系を問わないこの学類には型にはまらない多種多様の人に出会えます。私の学年ではそれぞれの得意分野を活かして、レポートの情報交換をしたりと、忙しいながらもなんとか課題やテストを乗り切りました。

辛いことが終わったら、美味しいものを食べに行ったり、サークルに打ち込んだり、つくばの広大なキャンパス内を自由気ままに散歩したりと、それぞれの大学生活を楽しんでいます。つくばには美味しい料理店やパン屋がたくさんあります。本を一冊もってパン屋に向かって、そこでゆったりと過ごすといった優雅な休日などもできちゃいます。

大学生活では今まで自分が経験したことのないことがたくさん待っています。授業にサークル、一人暮らしにアルバイト、自分の思い描くことは自身の行動次第でいくらかでも楽しくやり遂げることができます。みなさんはどんな理想の大学生活を思い浮かべますか？知識情報・図書館学類には素晴らしい環境があります。みなさんもぜひこの学類で一緒に学び、遊び、成長していきましょう！

北藤 李津子 KITAFUJI Ritsuko

知識情報・図書館学類3年

私がこの学類を選んだ理由は、司書になりたかったからです。私がこの学類のことを知ったのは、小学生のときです。当時は前身の図書館情報大学でした。母親に「本読むのもパソコンいじるのも好きなら、司書になればいいじゃない」とすすめられ、それからずっと司書になりたいと思っていました。

高校時代の私は、理数教科に悩まされる典型的な文系の学生で、併願した学部は、法学部、文学部の史学科などでした。正直、「情報学群」のなかにあるこの学類に入って、本当に大丈夫だろうかという気持ちもありました。もしかすると、この文章を見ているみなさんのなかにもこんな不安を抱いている方もいるかもしれません。

そんな方に、自信をもって言いたい。大丈夫です。

それなりに覚悟はしておいた方がよいのかもしれないですが、過度に構える必要はありません。なぜなら、この学類には高校時代に典型的な文系学生だった私のような人もいれば、理系分野の方が得意な人もたくさんいるからです。苦手な分野をお互いに教えあえば、きっと乗り越えることができます。それに、KLC（春日ラーニングコモンズ）には、さまざまな質問に答えてくれる心強い先輩がいます。あなたが悩んでいるようなことを解決してくれるような環境がこの学類には揃っているのです。

別の大学を選んでいたら、苦手な分野の授業を受ける機会はなく、その分野からの視点を知ることはできなかったでしょう。それに、この学類に来て出会った、別々の興味関心をもった友人たちのユニークな考え方も触れることもできなかったと思います。苦手な分野の勉強は確かに辛いですが、その分得られたものもたくさんあります。私は、この学類を選んで本当によかったです。



高久 雅生 TAKAKU Masao

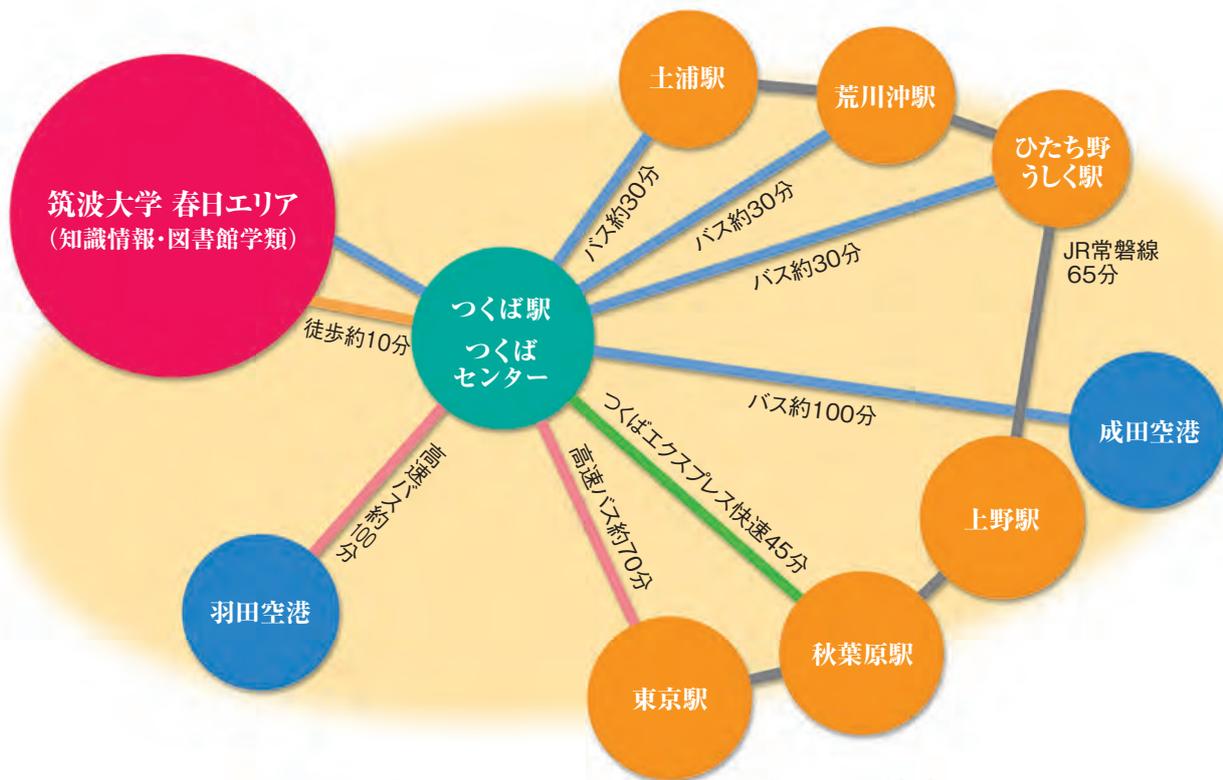
図書館情報メディア系 准教授 図書館情報大学卒業、筑波大学大学院修了、博士（情報学）

昔々、読書少年だった私は、親にやめろといわれても、授業中に教師に叱られながらも、本ばかり読んでいました。大学に入る頃は図書館の司書にでもなろうかと、ありがちな志望動機で大学に入学しました。しかし、大学に入学して初めて触ったコンピュータやプログラミングやWebの分野とその発展は、図書館の勉強よりはるかに面白く感じ、気づいてみれば、情報科学の研究の道に入りこんでいました。

大学の重要な役割は学び方を学ぶ場。学生としてすごした筑波の地に、実務の場を経て、また教員として戻ってきて、ますます強く思うようになりました。大学で学んだことはそれだけではほとんど役に立ちませんし、モノによっては10年と経たずに役立たずになっていることさえあります。だからこそ、長く学び続けるための手がかりと方法論を実践する必要があります。とりわけ、本学類が求める人材は、

知識と情報の専門職であり、自身のみならず、他人の学びをも支援することが必要です。

広い分野に対する好奇心を大事にしながらも、興味のおもむくままに夢中になれるナニかがあれば、それが一番と思います。



徒歩

「つくば駅」(A1、A2出口)または「つくばセンター」から徒歩約10分です。

鉄道

秋葉原駅からつくばエクスプレス 快速に乗ると45分で「つくば駅」に到着します。

JR常磐線 ひたち野うしく駅、荒川沖駅、または土浦駅で下車し、「つくばセンター」行きもしくは「筑波大学中央」行きのバスに乗ると、約30分で「つくばセンター」に到着します。

高速バス

東京駅八重洲南口高速バスターミナル発「つくばセンター・筑波大学」行きに乗ると、約70分で「つくばセンター」に到着します。

車

常磐道「桜土浦IC」で降り、東大通りを約5.2km北上し、左折して北大通りに入り、2つ目の信号を左折すると「筑波大学春日エリア」に到着します。

飛行機

羽田空港からは高速バスで、成田空港からはバスで「つくばセンター」まで約100分です。



お問い合わせ

〒305-8550 つくば市春日1-2
筑波大学 図書館情報エリア支援室
 TEL:029-859-1110 FAX:029-859-1162

<http://klis.tsukuba.ac.jp/>
 E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

2014年発行

